

事業番号	15 04 05	事業改善シート (25年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	発達障害児等総合支援事業			担当課	部局	教育委員会事務局	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	特別支援教育課	
	施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 5 すべての子どもの学びを保障する支援			E-mail	tokubetsu-shien@pref.nagano.lg.jp	
				実施期間	H22 ~		

1 事業の概要

目指す姿	教職員の発達障害に関する理解啓発を促進するとともに、発達障害に関する専門的な知識を持つ人材による学校支援を通して、発達障害のある児童生徒など支援を必要とする子どもたちが、安心・安定した学校生活が送れるようにする。						
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害に関する一般的な理解は広がりを見せているが、日常的な支援が定着するためには、定期的・継続的な研修が必要。 ○発達障害の理解が進むにつれ、発達障害のある児童生徒支援にかかわる新たな課題が見いだされるようになってきている。 ○個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた支援を行うために、専門的な知識を有する支援員等による支援の必要性が高まっている。 ○学校だけで支援を行うのではなく、地域の支援機関・支援資源を活用した支援体制に充実が求められている。 						
県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)	【左記の説明、根拠法令等】 学校教育法第81条 平成19年4月1日 特別支援教育の推進について(通知) 文部科学省 長野県特別支援教育推進計画					
事業内容	① 成果目標(H25)						
	<ul style="list-style-type: none"> ○出前研修年間実施回数をH25～29年度500回、延受講者数17,500人に向け、H25年度100回、延受講者数3,500人。 ○高等学校特別支援教育研究会の教員参加者をH25～29年度1,750人に向け、H25年度延350人。 ○地域の中核となるコーディネーターの養成(平成25・26年の2年間をかけた)71人。 						
	② 事業内容 (単位:千円)						
		項目	実施方法	H25事業実績	H25 (当初)	H25 (決算)	H26 (当初)
	1. 地域の中核となるコーディネーター研修事業	直接	・地域の中核となるコーディネーターの養成研修会を4回開催 (H25,26年2年間で養成)	139	50	143	
	2. 「発達障害支援力アップ」出前研修	直接	・小中高校等の要請に応じ、指導主事や専門性の高い教員等を派遣し、研修を実施(年間100回以上開催)	240	170	240	
	3. 「高等学校特別支援教育研究会」開催事業	直接	・発達障害のある生徒の就労・進学支援等、今日的な課題に関する研究会を実施(年間3回、各回公立高校全校より1名以上参加)	120	91	124	
			合計	499	311	507	
事業コスト	区分(単位:千円)						
	予算額	前年度繰越					
		当初予算	49,337	26,411	499	507	
		補正予算	-2,489				
		合計(A)	46,848	26,411	499	507	
	Aの財源	国庫支出金	1,856	109	165	167	
		県債	44,992				
		その他(繰入金)		26,084			
		一般財源	0	218	334	340	
	決算額(B)	46,052	27,055	311			
概算人件費	職員数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20		
	概算人件費(C)	1,652	1,652	1,652	1,652		
	概算事業費(B+A+C)	47,704	28,707	1,963	2,159		
成果目標の達成状況							
	項目	H24末(実績)	H25 目標	H25 成果	H25 達成状況	H26 目標	
	出前研修延べ参加者数	3,600人	3,500人以上	2,740人	未達成	3,200人	
	高校特別支援研究会延べ参加者数	450人	350人以上	440人	達成	350人	
	中核となるコーディネーター養成(H25.26の2年間)	-				71人	

目標に対する成果の状況 発達障害支援力アップ出前研修については実施回数が84回、延べ人数が約2,700人と前年度を下回ったが、授業のユニバーサルデザイン化や、愛着障害、ビジョントレーニング、SSTといった専門性の高い研修の充実が見られ内容の上で成果がみられた。高等学校特別支援教育研究会では350人の目標に対し440人と多くの人が研修を受けることができた。

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	特別な支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、地域における児童生徒の支援体制の構築が望まれる。地域の中核となるコーディネーターを引き続き養成することで各地域に高い専門性のある教員を配置していく。また、発達障害支援力アップ出前研修や高等学校特別支援教育研究会を実施することにより、教育現場での発達障害に対する理解と支援力、専門性を高めていく。